

I 福山市

ミッション

福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。

ビジョン

「福山100NEN教育」の基本理念のもと、各中学校区・学校が「21世紀型“スキル&倫理観”」の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。

II 中学校区

前年度学校関係者評価の主な内容	児童生徒の現状	育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”)	課題発見力、論理的思考力、コミュニケーション力、粘り強さ
・新しい時代に即した取組を行ってほしい。この先大変なことも多々あると思うが、全ては子ども達のために頑張ってもらいたい。	・小学校では学ぶ意欲はあるものの、全国学力学習状況調査における教科学力は若干下回っている。	めざす子ども像 (義務教育修了時の姿)	自己を認識し、自分の人生を選択し、表現することができる子ども
・地域とのつながりを大切に子ども達の成長を楽しみに、これからも連携、協力をお願いしたい。	・中学校では、生徒会活動を中心に、学校の課題の改善に努める取組が充実してきた。	中学校区として統一した取組等	・発信、表現の充実を踏まえた生活科・総合的な学習の時間の単元づくり ・相手、目的意識をもたせた特別活動の充実 ・図書館を含めた学習環境の整備
	・中学校における長期欠席の生徒は全体の10.5%である。(R4 全国平均3.8)		

III 自校

ミッション	育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”)	課題発見力	論理的思考力	コミュニケーション能力	ねばり強さ	
社会の一員としての自覚を持ち、夢に向かって果敢に挑戦しようとする子どもを育成する。	めざす子ども像	低学年	「不思議だな」「何故かな」を見つけることができる。	事柄や時間の順序を整理しながら考えることができる。	自分の思いや考えを相手に伝えることができる。	自分がやるべきことを、あきらめないでやり抜くことができる。
学校教育目標		中学年	既習内容や知識をもとに、自ら問いを見つけることができる。	因果関係を整理し、筋道を立てながら考えることができる。	自分の考えと相手の考えを比べながら伝え合うことができる。	目標を持って最後までやり抜くことができる。
自ら気づき、考え、判断して行動する子どもの育成		高学年	既習内容や身の回りから探究したい課題を見つけ、解決の見通しを持つことができる。	因果関係を整理し、筋道を立てたり、根拠を明確にしたりしながら考えることができる。	多様な考えを受け入れながら、自分の考えを伝えることができる。	自分の役割を自覚し、役に立つ喜びを感じながらやり抜くことができる。
現 状	研究	テーマ	学ぶ楽しさを実感しながら、主体的に学びに向かい、力を育む授業づくり ～教材研究による付ける力の共有、目的意識を持たせた言語活動を通して～			
<児童> ・学習活動、委員会・係活動に責任を持って取り組む児童が増えている。 「努力すれば自分も大抵のことはできる」94.1%。 「難しい問題でも諦めないで取り組む」93.0%。 「学校・学級で自分の役割を果たしている」96.3%。 ・生活リズムをマネジメントすることができない児童が固定化している。	内容等	計画的な言語活動、探究的な学び等についての理論研究・単元づくり 小グループでの教材研究・授業研究・協議				
		めざす授業の姿	・子どもが、「なぜ?」「なるほど」「できた」「わかった」と実感する授業 ・付ける力を子ども達と共有し、力が付いたと実感する授業 ・子どもが対話したり、解決方法を自分で選択したりする授業			
<授業> ・国語以外の教科でも、自分の考えを書く活動を取り入れている。 ・多様な学び方による授業展開、相手・目的意識を持たせた言語活動に取り組んでいる。 「授業がよく分かる」96.7%。「授業で考えることは楽しい」95.2%。 ・思考力、表現力の定着は個人差が大きい。 期末確認テスト 国語89.1点 算数75.7点						

Ⅳ 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立日吉台小学校

年 目	中期経営 目標	重点	分類	短期経営目標	目標達成に 向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)				最終評価(2月末)				
							□指標に係る 取組状況	力 評価	達成 評価	改善方策	□指標に係る 取組状況 ◎短期(中期)経営 目標の達成状況	力 評価	達成 評価	総合 評価	改善方策
3	基礎的な 力をつけ、 思考力、表 現力を育 む。	★	継 続	・読む力、書く 力、表現する 力の定着を 図る。	・重点単元を設 定し、思考を 問う問題を作 成し、実施す る。 ・探究的な展開 になるような 単元づくりを 行う。	・学期末確認テスト (思考・表現等) 国語・算数70点以上 ・「もっと知りたい、 学びたい」 90%以上	□学期末確認テスト (思考・表現等) 国語84.4点 算数70.9点 □「もっと知りたい、学 びたい」 91.6%	4	3	・重点単元を設け、単元末に学 習内容を統合して思考するよ うな問題を作成し、取り組 む。 ・生活科、総合的な学習の時間 を中心に、つける力を明確に し、探究的な学習展開になる ような単元づくりについて話 し合い、実践する。	□学期末確認テスト (思考・表現等) 国語85.9点 算数72.3点 □「もっと知りたい、 学びたい」 89.6% ◎読む力、書く力、表 現する力は、概ね定 着している。	3	3	3	・アンケート調査、学 期末確認テストの目 標は達成できたが、 算数科の思考力や表 現力に課題が残る。 来年度は算数科に焦 点を当て、児童の思 考力や判断力を育成 できる授業づくりに ついて教職員で考 え、意識統一して取 り組む。
			新 規	・学年の重点 内容の定着 を図る。	・付ける力を児 童と共有す る。 ・目的意識を持 たせて、言語 活動を行う。	・学期末確認テスト (知識・技能等) 国語・算数70点以上 ・図書館の利用週1回 以上60%以上	□学期末確認テスト (知識・技能等) 国語82.4点 算数84.8点 □図書館の利用週1回以上 65.6%	4	3	・漢字検定、計算検定を実 施し、基礎基本の定着を 図る。 ・読書委員会や図書館補助 員と連携し、読書への意 欲を高める。	□学期末確認テスト (知識・技能) 国語89.5点 算数85.6点 □図書館利用週1回以上 70.4% ◎学年の重点内容は、概 ね定着している。	4	4	4	・学期末確認テスト、 アンケート調査の目 標を達成することが できた。来年度も、引 き続き、漢字や計算 といった基礎基本の 定着を図る取組を行 っていく。 ・授業での図書の活用 について推進する。
3	自らに自 信を持ち、 相手を思 いやる心 を育成す る。	★	継 続	・自分の役割 を自覚しな がら、協働し てやり抜く 力を育む。	・行動目標に対す る振返りを継 続する。 ・自主的、継続的 な係、委員会 活動を促進す る。 ・学年か委員会 を中心に、児童 が企画運営す る異学年活動 を行う。	・「学級や委員会で自 分の役割を果たし ている」90%以上 ・「目標や努力するこ とを決めて取り組ん でいる」90%以上	□「学級や委員会で自分の 役割を果たしている」 94.6% □「目標や努力すること を決めて取り組んで いる」93.6% 行動目標に対する振り 返しをすることで、次の活 動に繋げることができた。 下半期に向けて、自主 的・継続的な係、委員会活 動を促進したり、異学年活 動の充実を図ったりする。	3	3	・行動目標に対する振返 りを継続する。 ・係活動・委員会活動の 充実を図るような実践 例を紹介したり、他学 年の取組を交流したり する。 ・異学年活動を2・3学 期で計3回行い、児童 が相手意識をもったり 目標をもって取り組ん だりする機会とする。	□「学級や委員会で 自分の役割を 果たしている」 95.8% □「目標や努力す ることを決めて 取り組んでいる」 94.1% ◎振返りを行う ことで、自分の 役割を自覚し たり、自信を付 けたりするこ とに繋がった。	4	4	4	・振返り、児童の 相互評価により 児童が自信を 付ける機会を 随時設ける。 ・係活動、委員 会活動で、活動 後、次に繋がる ような振返り を随時行うこ とで、自主的・ 継続的な活動 を促進する。
4	自らの生 活を律す るたくま しい心と			継 続	・体を動かすこ との楽しさに 気付くととも に、自らの生 活習慣をより よく改善して	・ロングロング 昼休憩や朝活 ウィーク及び 主体的に参加 できるレクやイ ベントを継続する。	・「運動やスポーツ、 外遊び等で体を 動かすことが好 き」90%以上	□「運動やスポーツ、遊 び等で体を動かすこ とが好き」 92.3%	3	3	・ロングロング昼休憩や 朝活ウィークでの遊び や運動を委員会が紹介 して、児童が決めて取 り組むことができるよ うにする。	□「運動やスポー ツ、遊び等で体 を動かすこと が好き」 94.5% ◎様々な体を動か	3	4	4

	体を育成する。			いく態度を育む。	・メディアの使用時間を意識することができる取組を行う。					・アウトメディア週間の結果の報告や、メディアの使用時間と生活の関係について啓発を継続していく。	す機会を作ったことで、積極的に体を動かそうとする雰囲気が醸成されている。				・アウトメディア週間の結果をもとに、メディアによりや学年通信でメディアの使用時間と生活の関係について保護者に啓発を行う。
4	教職員が自身の力量向上に向けて、やりがいと充実感を持って働こうとする職場環境を作る。	★	見直し	・教育公務員としての自覚と責任を持ち、自己研鑽に励む。	・分掌について、目的と方向性を確認しながら企画立案する。 ・小グループでの教材研究を定期的に行う。	・「仕事に意義ややりがいを感じている」 90%以上 ・「本音を気兼ねなく発言でき、個性が認められているという実感がある」 90%以上 ・時間外在校時間月45時間以内、年360時間以内の職員100%	・「仕事に意義ややりがいを感じている」 92.3% ・「本音を気兼ねなく発言でき、個性が認められているという実感がある」 84.6% ・時間外在校時間月45時間以内職員 100%	3	3	・各学年や各推進部で、目的と方法を見極め、企画立案し、取組の進捗状況を確認めるとともに、検証を行っている。 ・引き続き、小グループでの教材研究を行い、授業づくりについて交流する。	・「仕事に意義ややりがいを感じている」 100% (校内でのアンケート結果) ・「本音を気兼ねなく発言でき、個性が認められているという実感がある」 92.8% (校内でのアンケート結果) ・時間外在校時間月45時間以内 100% ・年360時間以内の職員 95% ◎目的と方法を検討し、取組状況を確認しながら進めることができた。	4	4	4	・目的と方法を見極めながら取組を精査する。 ・企画立案、取組の実施、進捗状況の把握、検証を行う。 ・学年会を適時行い、学年間で一緒に取組を推進する。

[プロセス評価の評価基準]		[達成評価の評価基準]		[総合評価の評価基準]		
評点	評価基準	評点	評価基準	評点	評価基準	
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。	5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。	5	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。	4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。	4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。	3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。	3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。	2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。	2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。	1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。	1	40%未満の達成度	目標を達成できなかった。